

個人質問(6月24日) さはしあこ議員

「身体的距離の確保」(新しい生活様式)は、学校教室では例外なのか 感染症防止・子どもに寄り添った教育のために30人学級を全学年に

6月24日、本会議の個人質問で、さはしあこ議員はコロナ感染拡大の中での少人数学級拡大を求めました。

40人学級では身体的距離の確保は困難

さはし議員は、「新しい生活様式」として「身体的距離の確保」「人との間隔はできるだけ2メートル(最低1メートル)空けることがよびかけられているのに、名古屋市の学級編成基準である40人学級では、2メートルはおろか、1メートル空けることも不可能で「身体的距離の確保」ができないことを指摘しました。

過密状態の教室に子ども・教職員・保護者からよせられる不安の声を紹介し、「小規模のクラス編成でこそ、子どもたちに寄り添うことができる」「国会で、安倍首相が『少人数学級の実現に向けて鋭意努力をしていきたい』と述べた」と、全学年への少人数学級拡大の必要を訴えました。

教育委員会は「文科省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」」等に従い新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めている。「少人数学級のさらなる拡大については、現在の状況を踏まえ、慎重に判断する必要がある」と述べるにとどまり、コロナ感染防止における少人数学級の必要性には答えませんでした。

少人数学級に必要な教室と教員の確保を

さはし議員が、40人学級の過密状態を解消するために、必要な教室と教員の確保を求めると教育委員会は「学校再開に先立ち、使用していない教室がある学校で、学級を2つに分け、授業をおこなうことを例として示した」「教員については、定年退職者はじめとする正規教員以外の教員免許保持者は、現在、常勤や非常勤の講師として任用し、学校を支えていただいているのでご理解賜りたい」とこたえました。



最後に市長に「コロナで子どもを1人も死なせないマチ」というなら、少人数学級を検討すべきだと迫りました。しかし、市長は「学校は人数の問題だけではない」とコロナ感染防止のための少人数学級拡大に答えを示しませんでした。

新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所のあり方を要求

一人当たりの避難スペースを見直し

さはし議員は、国の通知で、避難所が過密状態になることを防ぎ、避難者が十分なスペースを確保できるように一人あたり2m×2m=4㎡を確保することが望ましいとしていることを紹介しました。現在「名古屋市指定避難所運営マニュアル」では、避難スペースは「一人あたり2㎡が目安」になっており、先日行われた市の職員による「新型コロナウイルス感染症に対応した指定避難所開設運営の実地検証訓練」の検証を踏まえて、避難スペースの見直しを求めると、危機管理局長は「避難所における3密を避

けるため、避難者同士の一定の距離を保つことができるような避難所のあり方を考える必要がある」「国が示している基準を参考に実施した検証訓練の結果などを踏まえ、指定避難所運営マニュアルに反映する」とこたえました。

生活・衛生環境の改善を提案

さはし議員が提案した温かい食事の提供については「様々な物資供給事業者との協定締結など、関係局と連携を図りながら、避難所における生活環境の向上にとりくんでまいりたい」との考えを示しました。